



FNK だより

第1号 2013. 5. 10 発行

せっかく買った高価なパソコンは末永く使いたいの。扱い方を誤って、壊してしまったり、寿命を短くしてしまったりは大変です。

また、日常の使い方でも、知らず知らずのうちにパソコンに負担をかけている場合があります。故障を防いで長持ちさせるパソコンの使い方のコツを紹介します。

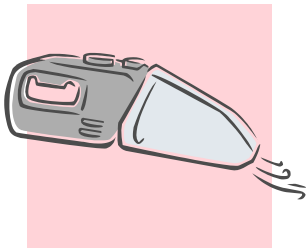
パソコンの動きが不安定になったり故障の原因で多いのは「熱」と「衝撃」。これらを守るだけで、故障の危険性は大きく下がります。



まずは熱。パソコンは換気

口と冷却ファンで熱から守りますが、それらが正常に働いていないと内臓とハードディスク（HDD）やCPUが厚くなり不調の原因になります。実際にパソコン回りを確認しましょう。直射日光を避けるのはもちろん、ホコリにも注意します。というのも、換気口や冷却ファンにとってホコリは天敵なのです。

ホコリ対策には、定期的な掃除が一番。動作の不安定を解消でき、きれいになって一石二鳥です。ノートパソコンをベッドの上で使うのはなるべく避けましょう。



ホコリはパソコンの天敵。換気口や冷却ファンに付着すると、本来の冷却機能が働きません。定期的な掃除が大切です。換気口や冷却ファンの掃除は、ホコリが内部に入り込まないように、掃除機で吸い込むのが理想です。ただ、内部を掃除する場合は別。掃除機の静電気が原因で部品が壊れることがあるので、「エアダスター」を使います。

もう一つが衝撃。内臓HDDは精密な部品なので小さな衝撃でも故障する危険があります。自宅では転倒防止用のグッズ、外出先ではケースに入れるなど、安全に使う工夫をすることが大切です。

内臓HDDは衝撃や振動にとっても弱い部品。パソコンを持ち出したり、移動したりする場合は注意が必要です。

まず、内臓HDDがデータを読み書きしているさいちゆうに動かさないことが鉄則。読み書き中が最も壊れやすい状態なのです。パソコンの電源を切ったら、内蔵HDDの「アクセスランプ」が消えるのを待ちましょう。

外出先などで長時間充電出来ないなら「休止状態で」終了するのがお薦め。「スリープ」で終了すると、バッテリーが切れることがあります。休止状態なら、作業中の状態が内蔵HDDに保存され、しかもボタンを押してすぐに起動します。